

栄光学園、富山中学校で 生徒がチャレンジ！ データ活用、デジタルアート & 学びのフェス 2026 春

ワークショップ 活動レポート

2026.4.7発行

生成 AI の普及や DX の進展により、社会のさまざまな分野で IT の役割はますます重要になっています。教育現場でも、IT を理解し主体的に活用する力を養うことが求められています。次世代を担う中学生・高校生が IT の仕組みや可能性、社会への応用を体験的に学ぶことは、将来の学びや進路の可能性を広げる意味があると当財団では考えています。

本レポートでは、当財団が実施した高校でのデータ活用の授業と、中学校でのデジタルアートワークショップの様子を紹介します。あわせて、3/26(木)に毎日新聞社主催の「学びのフェス 2026 春」で行った小学生向けプログラミングワークショップについても報告します。

■栄光学園で高校 1 年生がデータ活用に挑戦！

2/25(水)、3/4(水)、神奈川県の栄光学園中学高等学校の高校 1 年生 4 クラスに「クレジットカード不正検知」「デタカツ Education 版」の授業を行いました。この授業は当財団が中高生向けに開発したデータ活用を学ぶ授業コンテンツです。

「クレジットカード不正検知」の授業では、不正検知の現場で使用されている実際のクレジットカード利用データとエクセルを用い、不正を見つけ出すルールを考えます。ルールは「自宅からカード利用店舗までの距離」、「店舗利用履歴」といった項目を組み合わせて考えます。ルールの完成度は 100 点満点で判定されますが、今回、90 点以上をとる生徒が続出。100 点満点をとる生徒もいました。

「デタカツ」の授業は、企業がより多くの収益を目指す企業に成長するために、データの活用が重要であることをカードゲームを通して学ぶ授業です。5 人一組でひとつの企業になりきり、カードに書かれているデータ活用のどれを実行するかチームで考え、取捨選択し会社の成長を目指します。成長の程度はさまざまでしたが、生徒たちはデータの重要性を体験することができました。

< 授業を担当した栄光学園の日野先生から >

いずれも面白い教材で、本校生徒も積極的に取り組んでいたと思います。45 分の授業時間で十分でしたが、さらに時間をとり、生徒同士の共有の時間やデータ活用について、もっと深掘りできるとよりよかったと思っています。



「クレジットカード不正検知」授業
エクセルで不正検知ルールを作成



「デタカツ」授業の様子

■デジタルアートワークショップ開催 千葉県南房総市立富山中学校

2/24(火)、千葉県南房総市立富山中学校でデジタルアートワークショップを開催しました。
美術の授業でタブレットを用いて線画に彩色するデジタルアートに、1年生29名が初挑戦しました。

生徒達は4種類の線画から1つを選んで、作品づくりに取り組みました。

思い通りに色付けできないと何度もやり直す生徒や思いのままスムーズに色付けする生徒もいました。

皆、個性溢れる作品に仕上がりに、タイトルを付けて作品を完成させました。

最後に、生徒の中から代表10名が作品発表をしました。

「タイトルを付けてから作品制作を進めたが、途中で違うイメージになり、タイトルを変更した」「イメージしながら色付けしたものの、イメージと違う作品が出来上がった。それでも納得のいく作品になった」

生徒達のコメントにも個性が現れていました。



作品づくりに熱心に取り組む様子

**4種類の線画を作ったのは
高校3年生の柳生千裕さん！**



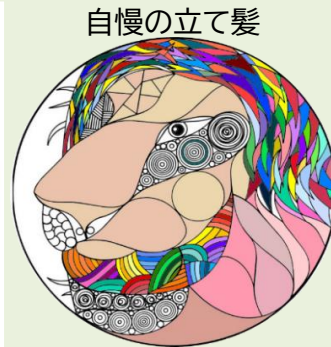
作品発表の様子



柳生 千裕(やぎゅう ちひろ)さん

ルーラーアート作家。兵庫県西宮市在住の高校3年生。9歳から創作活動を開始。見た人が楽しく元気になる絵を目標に描く。

生徒の作品の一部を紹介！



29名の生徒と先生の作品はこちらから

※活動レポートや画像の無断転載は、ご遠慮ください。

CTC未来財団

■「学びのフェス 2026 春」ワークショップで大学生が大活躍！



ワークショップの様子



ワークショップの進め方について
作戦会議中の学生ボランティア

3/26(木)毎日新聞社主催「学びのフェス 2026 春」に当財団から「プログラミングワークショップ」を出展しました。当日は、当財団の奨学生ボランティア募集に応じた4人の有志学生が参加し、ワークショップの司会進行とともに、総勢 29 名の新小学 2 年、3 年生達の活動を支援しました。



学生ボランティア(左から)高塚さん、多田さん、久保さん、浅島さん

【参加した学生ボランティアの感想】

- ・子ども達の「学ぼうとする姿勢」がすばらしいと感じました。もちろんそれを自分は失った訳では無いですが、純粋無垢に興味を示す姿勢は学ばなければいけないと思いました。(高塚さん)
- ・学びのフェスでの活動は塾講師などのアルバイトをしていない自分にとって子ども達の試行錯誤や、理解した瞬間に立ち会える貴重な機会となっていて、やりがいや楽しさを感じています。(多田さん)
- ・何度もボランティアに参加させていただきました。子ども達が喜んでくれる姿はいつ見ても嬉しいです。子ども達の姿を通し、自分も頑張らなくてはと思わされます。(浅島さん)
- ・以前からこのボランティア活動に関心を持っていましたが、部活動と日程が合わずにいました。今回、やっと日程があい参加することができました。今後も参加したいと思います。(久保さん)

—財団事務局より—

2025 年度は、情報教育をより身近に、そして実践的に学ぶ機会を提供することを目指し、中学生・高校生を対象にした 3 つの授業「[mirai 創造ラボ](#)」を開発しました。

- 1)「デタカツ Education 版」:カードゲームでデータ活用を学ぶ
- 2)「クレジットカード不正利用検知」:Excel を駆使し不正を見つけ出す
- 3)「生成 AI 基礎講座」:AI の仕組みや活用方法を学ぶ

授業を実施した学校は、栄光学園中学高等学校のほか、早稲田大阪高等学校(7 月)でした。2026 年度は、より多くの中学・高校で授業を行い、本事業の今後の柱となることを目指します。大学生のボランティア活動の場づくりも継続します。



ワークショップ後の学生ボランティアと
事務局の一コマ